

第3章 焼津市の指定等文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要と特徴

焼津市には、国指定等文化財3件、県指定文化財5件、市指定文化財59件の計67件の指定文化財と、国登録有形文化財3件があります。国・県を含む指定等文化財件数の内訳は、有形文化財50件のうち建造物15件、絵画・彫刻・書跡などの美術工芸品35件、無形文化財3件、民俗文化財6件のうち、有形のもの3件、無形のもの3件、記念物のうち遺跡7件、天然記念物3件、そのほか伝統的建造物群1件です。

(1) 国指定等文化財

重要文化財には、鎌倉時代の達磨大師の伝説を描いた「絹本墨画淡彩芦葉達磨図」があります。重要無形民俗文化財としては、寛和年間(985～987)に始まったとされる民俗芸能の「藤守の田遊び」が今に伝えられ、毎年3月17日に奉納されます。焼津市最北の集落、「焼津市花沢地区」は、県内初の重要伝統的建造物群保存地区に選定された山村集落で、明治以降ミカン栽培で栄えました。国登録有形文化財建造物では、浜当目の大庄屋であり塩を商つ



写真3-1
絹本墨画淡彩芦葉達磨図



写真3-2
法華寺の木造聖観音立像

種類		国			静岡県	焼津市	合計	
		指定・選定	登録	記録選択	指定	指定		
有形文化財	建造物	0	3	0	0	12	15	
	美術工芸品	絵画	1	0	0	0	6	7
		彫刻	0	0	0	1	5	6
		工芸品	0	0	0	3	8	11
		書跡・典籍	0	0	0	0	2	2
		古文書	0	0	0	0	7	7
		考古資料	0	0	0	0	1	1
	歴史資料	0	0	0	0	1	1	
無形文化財		0	0	0	0	3	3	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	0	0	3	3	
	無形民俗文化財	1	0	0	1	1	3	
記念物	遺跡(史跡)	0	0	0	0	7	7	
	動物、植物、地質鉱物 (天然記念物)	0	0	0	0	3	3	
文化的景観		0	0	0	0	0	0	
伝統的建造物群		1	0	0	0	0	1	
記録作成等の措置を講ずべき 無形の民俗文化財				2			2	
合計		3	3	2	5	59	72	
埋蔵文化財							60	

表3-1 市内指定等文化財件数

たことでも知られる「原田家住宅」が保存されています。国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財には、「焼津神社の獅子木遣りと神ころがし」があります。

(2) 静岡県指定文化財

静岡県指定文化財は5件あり、彫刻では焼津市花沢伝統的建造物群保存地区内に所在する法華寺に伝わる平安後期の「木造聖観音立像」が、工芸品としては太刀3振（銘「備前長船長義」・銘「備州長船住成家」・銘「景次」）が指定されています。無形民俗文化財には「焼津神社獅子木遣り」が伝えられ、毎年8月13日の焼津神社大祭の渡御行列の先頭を務めます。

(3) 焼津市指定文化財

焼津市指定文化財としては建造物12件、絵画6件、彫刻5件、工芸品8件、書跡・典籍2件、古文書7件、歴史資料、考古資料がそれぞれ1件、無形文化財3件、有形民俗文化財3件、無形民俗文化財1件、史跡7件、天然記念物3件を指定しています。

○建造物

建造物としては、山門や本堂など江戸時代の神社建築を中心に7件が指定されています。元禄16年(1703)建立で市内唯一の仁王門「法華寺の仁王門」、明和6年(1769)建立で市内唯一の茅葺き建築物「永豊寺の山門」、明和8年(1771)建立で内部に輪蔵が造りつけられた「林叟院の経蔵」、安永9年(1780)寄進の紀州徳川家ゆかりの「海蔵寺の本尊厨子」、安永9年(1780)建立で本多家の家紋が見られる「大井神社本殿」、天保15年(1844)建立で市内唯一の袴腰張の「林叟院の鐘楼」、万延元年(1860)棟上で正面扉に葵紋が刻まれた「海蔵寺本堂」があります。

建造物のうち石造物としては、虚空蔵山(当目山)付近に露頭のある「当目石」を使った江戸時代の石塔など5件が指定されています。寛永2年(1625)建立当目石製の「香集寺の石燈籠」、信州高遠の石工による天明7年(1787)建立「成道寺の宝篋印塔」、寛政3年(1791)の寺絵図に記載のある「林叟院の宝篋印塔」、文政5年(1822)建立で市内で最も大型の「那閉神社の常夜灯」、天保6年(1835)架設で現在も使われている「若宮八幡宮の石橋」があります。



写真 3-3 法華寺の仁王門



写真 3-4 那閉神社の常夜灯



写真 3-5 長徳寺格天井の絵

○美術工芸品

美術工芸品のうち絵画には、田中城主によって寄進された大型の絵馬や幕末から明治期の郷土ゆかりの文人が描いた絵画6件が指定されています。寛文7年(1667)に田中城主の弟西尾主水忠知(1619-1675)が対で奉納した「香集寺の絵馬」「海蔵寺の絵馬」、元文2年(1737)、田中城主本多正珍(1710-1786)奉納の「弘徳院の絵馬」、鎌倉末期に遡る「一遍上人縁起絵断簡」、明治29年(1896)制作で焼津ゆかりの文人らが描いた「長徳寺格天井の絵」、明治時代の画家、池谷松石作「日本全勝千万年之図」が残ります。

彫刻では、江戸時代の遊行僧として知られる木喰五行上人(1718～1810)が残した木喰仏など仏像5件が指定されています。木喰五行上人の作である「大日堂の吉祥天像」「大日堂の不動明王像」「宝積寺の地藏菩薩像」「勢岩寺の弘法大師像」、酉年のみ開帳される長徳寺の「不動明王像」が指定となっています。

工芸品には、考古資料や、寺社に伝来する江戸時代の鰐口、半鐘、厨子などのほか、中世期の笙や槍など多様な工芸品8件が指定されています。境内の古墳から出土した「猪之谷神社の六鈴鏡」、法隆寺に伝来した「成道寺の百萬塔」、文永4年(1267)の銘を持つ「光心寺の麒麟の笙」、貞享2年(1685)寄進の「普門寺の半鐘」、紀州徳川初代の徳川頼宣の守り本尊とともに奉納されたと伝わる「海蔵寺の厨子」(附 厨子内納入品(内厨子・守り本尊))、直径44cmを測る大井川地区で最も大きい円永坊の「鰐口」、寄進年月日や寄進者が判明している「貞善院の鰐口」、室町時代の名工の作「大身槍 銘長吉作」が伝わります。



写真 3-6 木喰仏



写真 3-7 海蔵寺の厨子



写真 3-8 猪之谷神社の六鈴鏡

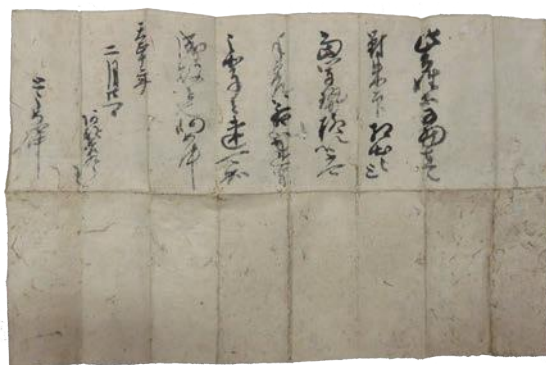


写真 3-9 徳川家康朱印状

書跡では、墨で紙に書かれたものだけではなく、書を板彫りして額にしたものも含めて、2点が指定されています。寛永の三筆として知られる松花堂昭乗(1582-1639)の「若宮八幡宮棟札」、焼津市出身の書家、池谷雲谷(1858-1932)が大書した則心寺の扁額「静富山」があります。

古文書には、戦国時代の今川、武田、徳川の三氏に関連したものが、5点、江戸時代の漁業に関するものが2点指定されています。天文9年(1540)、円永坊に出した「今川義元判物」、永禄4年(1561)に焼津神社に与えられた「今川氏真朱印状」、天正10年(1582)、家康が当目郷に出した「徳川家康朱印状」、徳川家康が天正12年(1584)に出した「坂本貞次・駒井勝盛連署状」、慶長2年(1597)に掛川城主山内一豊(?-1605)が盤石寺に与えた「掛川城主山内一豊の判物」、天保12年(1841)に浜通り三カ村(北新田村、城之腰村、鯛ヶ島村)それぞれ現在の北浜通、城之腰、鯛ヶ島)で漁の規定を取り決めた「獵方申合定法之事」とこれを再確認した「漁方規定取極之事」が残ります。

歴史資料としては安永4年(1775)に田中城主本多正供(1746-1777)が寄進した「海蔵寺の御戸帳」を、考古資料としては古墳時代前期の住居跡から出土した「小深田型石製垂れ飾り」を指定しています。

○無形文化財

無形文化財では、焼津市の生業の特色をあらわす3件が指定されています。焼津漁業に関わる無形文化財としては「焼津鯉節製造技術」があり、毎年、新嘗祭用の鯉節を献上しています。全国的に弓道具製作者が減少する中、「弓道具製作技術(矢製作・弓懸製作・巻藁製作)」が続くことも貴重です。このほか、戦前の農家で副業となっていた「焼津笠製作技術(骨組製作・スゲ縫い上げ)」も指定し保護を図っています。



写真 3-10 海蔵寺の御戸帳(左:裏、右:表)



写真 3-11 焼津笠制作技術(スゲ縫い上げ)



写真 3-12 関方山の神祭



写真 3-13 井伊直孝産湯の井

○民俗文化財

有形民俗文化財には宝永6～7年(1709～1710)に下小杉村の3人が行った「ろくじゅうろくぶかいこくかんけいしりょう 六十六部廻国関係資料(横山九郎右衛門・やざわへいざぶろう 谷澤兵三郎・のりつきさぶろうひょうえ 法月三郎兵衛)」があり、廻国巡礼の資料が複数まとまって残っているのは、全国的に見ても大変めずらしく貴重です。

無形民俗文化財は関方の「山の神祭」で、山の神を田に迎える古い形式の祭りが、毎年2月8日におこなわれます。

○記念物

遺跡(史跡)には、平安時代に創建と伝わる寺跡、戦国から江戸時代の徳川家康にまつわる場所、明治時代の小学校跡など、バラエティに富んだ遺跡が指定されています。田沼意次が中世以来の古道を拡張改修した「きゅうさがらかいどうあと 旧相良街道跡(田沼街道)」、こうやさん ふもんいん 高野山の普門院の末寺で、開創は平安期とされる大井川地区の「えんえいぼうあと 円永坊跡」、「ふくしょうざんだいまんじあと 福翁山大満寺跡」、江戸時代の耕地整理の跡である大井川地区の「ひやくかまちだあと 百ヶ間地田跡」、明治22年(1889)開設の「しずはまむらほかにかせんくみあいいりつしずはまこうとうしやうがっこうあと 静浜村外二ヶ村組合立静浜高等小学校跡」、徳川家康が鷹狩りの際に休んだとされる「しやうぎす あと 徳川家康公床机据え跡」、江戸幕府樹立の功労者とされる井伊直孝にちなむ「うぶゆい 井伊直孝産湯の井」があります。

動物・植物・地質鉱物(天然記念物)としては、2種3本の樹木が指定されており、そのうち1種は市木でもあるクロマツです。マキ科の常緑高木である「猪之谷神社のナギノキ」、樹形が竜の横に這う姿に似ているクロマツの「がりゅう 臥竜のマツ」、推定樹齢約600年、樹高25mをはかるクロマツ「旭伝院のマツ」を指定しています。



写真 3-14 ナギの木

コラム：海蔵寺と徳川頼宣(紀州徳川家)

海蔵寺は、焼津市東小川にある時宗の古刹です。「小川のお地藏さん」と呼ばれ多くの人々に広く親しまれ、信仰されています。

海蔵寺8世吞龍(どんりゅう)が記したとされる『じぞうそんえんぎ 地藏尊縁起』などによれば、徳川家との結びつきは、徳川家康がこの地に鷹狩りへ訪れた際に、寺の由緒を聞き信仰し、寺領を安堵したことに始まるとされます。その後、駿府城主となった家康の十男頼宣(後の紀州徳川家初代)からも厚い信仰を受け、本堂を建立してもらったりもしました。頼宣が紀伊国に転封になった際には、海蔵寺も移転しないかと打診しましたが、小川が地藏尊所縁の場所であると固辞したため、移転は断念し、自身の髻の中に入れていた「守り本尊」の地藏菩薩像(焼津市指定文化財)など多くの宝物を海蔵寺に奉納したそうです。

頼宣ゆかりの寺ということで紀州徳川家8代徳川(しげのり)重倫、10代徳川(はるとみ)治宝は海蔵寺再建に際して資金面の支援をしており、治宝は本堂にかける扁額を下賜したりもしています。このため寺には、家康・頼宣等所縁の資料が多く伝わり、本堂の厨子の扉、瓦などには、徳川家の家紋である「三つ葉葵」が刻まれています。



写真 3-15 海蔵寺の厨子の内厨子と守り本尊

国指定重要文化財

種類	名称	所在地	所蔵・管理者等	指定年月日
絵画	絹本墨画淡彩芦葉達磨図	一色	成道寺	平成7年6月15日
民俗	藤守の田遊び	藤守	藤守の田遊び保存会	昭和52年5月17日

国選定重要伝統的建造物群保存地区

種類	名称	所在地	指定年月日
伝統的建造物群	焼津市花沢	花沢、吉津及び野秋の一部	平成26年9月18日

国登録有形文化財

種類	名称	所在地	所蔵・管理者等	指定年月日
建造物	原田家住宅 (主屋、文庫倉、表門の3棟)	浜当目	個人	平成30年3月27日

国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

種類	名称	所在地	所蔵・管理者等	指定年月日
民俗	焼津神社の獅子木遣りと神ころがし	焼津	焼津神社	昭和53年12月8日
民俗	藤守の田遊び	藤守	藤守の田遊び保存会	昭和46年4月24日

県指定重要文化財

種類	名称	所在地	管理者等	指定年月日
彫刻	木造聖観音立像	花沢	法華寺	昭和33年4月15日
工芸	太刀 銘「備前長船長義」	焼津5丁目	個人	昭和31年10月17日
	太刀 銘「備州長船住成家」	〃	〃	昭和33年4月15日
	太刀 銘「景次」	〃	〃	昭和38年12月27日
民俗	焼津神社獅子木遣り	焼津2丁目	獅子木遣り保存会	昭和53年3月24日

市指定文化財

種類	名称	所在地	管理者等	指定年月日
建造物	法華寺の仁王門	花沢	法華寺	昭和42年12月4日
	林叟院の経蔵	坂本	林叟院	昭和42年12月4日
	海蔵寺の本尊厨子	東小川6丁目	海蔵寺	昭和46年10月1日
	林叟院の鐘楼	坂本	林叟院	昭和47年5月17日
	大井神社本殿	保福島	大井神社	昭和51年6月2日
	永豊寺の山門	西小川3丁目	永豊寺	昭和60年2月21日
	香集寺の石燈籠	浜当目	香集寺(弘徳院)	昭和61年9月30日
	那閉神社の常夜灯	浜当目3丁目	那閉神社	昭和61年9月30日
	林叟院の宝篋印塔	坂本	林叟院	昭和61年9月30日
	成道寺の宝篋印塔	一色	成道寺	昭和61年9月30日
	若宮八幡宮の石橋	中里	若宮八幡宮	平成17年10月20日
	海蔵寺本堂	東小川6丁目	海蔵寺	平成27年11月4日
絵画	弘徳院の絵馬	浜当目3丁目	弘徳院(当館寄託)	昭和47年5月17日
	香集寺の絵馬	浜当目3丁目	弘徳院(当館寄託)	昭和47年5月17日
	長徳寺格天井の絵	飯淵	長徳寺	昭和49年10月30日
	日本全勝千年之凶	下小杉	則心寺	昭和49年10月30日
	海蔵寺の絵馬	東小川6丁目	海蔵寺	平成9年9月30日
彫刻	「一遍上人縁起絵」断簡	東小川6丁目	海蔵寺	平成17年10月20日
	大日堂の吉祥天像	石脇下	大日堂(当館寄託)	昭和42年12月4日
	大日堂の不動明王像	石脇下	大日堂(当館寄託)	昭和42年12月4日
宝積寺の地藏菩薩像	石脇下	宝積寺	昭和47年11月28日	

表3-2-1 市内指定等文化財一覧表(令和4年3月現在)

種 類	名 称	所在地	所蔵・管理者	指定年月日
彫刻	勢岩寺の弘法大師像	石脇下	勢岩寺（当館寄託）	昭和48年6月23日
	不動明王立像	飯淵	長徳寺	昭和62年2月12日
工芸品	猪之谷神社の六鈴鏡	関方	猪之谷神社（当館寄託）	昭和41年9月21日
	成道寺の百萬塔	一色	成道寺	昭和41年9月21日
	光心寺の麒麟の笙	東小川1丁目	光心寺（当館寄託）	昭和42年5月9日
	海蔵寺の厨子 附 厨子内納入品 一、内厨子 一、守り本尊	東小川6丁目	海蔵寺	昭和44年12月17日
	鱧口	利右衛門	利右衛門自治会	昭和49年10月30日
	貞善院の鱧口	焼津6丁目	貞善院	昭和53年1月21日
	普門寺の半鐘	焼津6丁目	普門寺	昭和53年1月21日
書跡・典籍	大身槍 銘長古作	東小川5丁目	熊野神社（当館寄託）	平成27年7月24日
	扁額「静富山」	下小杉	則心寺	昭和49年10月30日
古文書	わかみや八幡宮棟札	中里	若宮八幡宮（当館寄託）	昭和53年9月1日
	掛川城主山内一豊の判物	中島	盤石寺	昭和49年10月30日
	今川義元判物	利右衛門	利右衛門自治会	平成15年4月4日
	坂本貞次・駒井勝盛連署状	石脇下	個人	平成19年10月26日
	徳川家康朱印状	浜当目1丁目	個人	平成19年10月26日
	今川氏真朱印状	焼津2丁目	焼津神社	平成19年10月26日
	狹方申合定法之事	北浜通	個人	平成27年11月4日
考古資料	漁方規定取極之事	大村2丁目	個人（当館寄託）	平成27年11月4日
	小深田型石製垂れ飾り	三ヶ名	焼津市	平成18年12月26日
歴史資料	海蔵寺の御戸帳	東小川6丁目	海蔵寺	平成3年2月27日
無形文化財	焼津鯉節製造技術	上小杉	焼津鯉節伝統技術研鑽会	平成17年3月10日
	弓道具製作技術	東小川6丁目 東小川5丁目 惣右衛門	個人（矢製作） 個人（弓懸製作） 個人（巻藁製作）	平成18年12月26日
	焼津笠製作技術	焼津6丁目	個人（骨組み）	平成19年10月26日
		焼津2丁目	個人（スゲ縫い上げ）	平成26年9月11日
有形民俗	横山九郎右衛門の六十六部廻国関係資料	下小杉	個人	平成31年4月19日
	谷澤兵三郎の六十六部廻国関係資料	下小杉	個人	平成31年4月19日
	法月三郎兵衛の六十六部廻国関係資料	三ヶ名	焼津市	平成31年4月19日
無形民俗	山の神祭	関方地区	山の神祭保存会	昭和41年9月21日
遺跡（史跡）	旧相良街道跡	上新田	個人	昭和49年10月30日
	円永坊跡	利右衛門	利右衛門自治会	昭和49年10月30日
	福翁山大満寺跡	下江留	下江留自治会	昭和49年10月30日
	百ヶ間地田跡	上新田	個人	昭和49年10月30日
	静浜村外二ヶ村組合立静浜高等小学校跡	宗高	個人	昭和49年10月30日
	徳川家康公床机据え跡	宗高	個人	昭和49年10月30日
動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	井伊直孝産湯の井	中里	焼津市	平成25年9月6日
	猪之谷神社のナギノキ	関方	猪之谷神社	昭和44年12月17日
	臥竜のマツ	保福島	個人	昭和47年5月17日
	旭伝院のマツ	保福島	旭伝院	昭和47年5月17日

表 3-2-2 市内指定等文化財一覧表（令和4年3月現在）

2 未指定文化財の概要と特徴

本市の未指定文化財については、『焼津市史』及び『大井川町史』編纂事業を中心として、過去の調査などを含め、57,152件を把握しています。内訳は有形文化財建造物211件、美術工芸品53,308件（考古資料約2,600箱を除く）、無形文化財15件、民俗文化財3,335件、記念物108件、文化的景観2件、伝統的建造物群1件、伝承や屋号などその他が172件です。

建造物には、元禄8年(1695)建立の法華寺本堂、徳川家康寄進と伝わる焼津神社本殿、成道寺の山門などのほか、各地区に堂宇が残っています。民家や近現代建築物については浜通り地区で漁村の歴史的建造物（写真3-16）などがあります。建造物のうち石造物には社寺の石燈籠や手水鉢などのほか、高草山周辺域に残る江戸時代の道標群といった焼津らしい文化財があります。虚空蔵山付近で採掘された当目石を用いたものが多く見られるなどの特徴も認められます。

美術工芸品は市内各所にみられる川除地蔵（写真3-18）や波（浪）除地蔵、学校地蔵など信仰の対象、赤穂浪士討ち入りに関連する吉良家にゆかりと伝わる方ノ上法号庵の閻魔大王座像（写真3-19）、小泉八雲が作品に描いた甚助の板子、徳川家康の肖像画や下賜されたと伝わる茶道具類など、内容豊富な文化財が見られます。

無形文化財には漁業に関する大漁旗の染織技術、著名人が作曲した校歌などが残ります。また、今は途絶えてしまいましたが志太天神製作技術や上新田ダルマ製作技術は現大井川下流域の歴史として記憶されています。有形民俗文化財には瀬戸川流域から旧大井川本流域の祭りで引き回される山車の一種であるちょうぼろ（写真3-20）、重要無形民俗文化財「藤守の田遊び」で過去に使われていた面、上新田ダルマなどがあります。無形民俗文化財には虚空蔵山麓の弘徳院で毎年行われるダルマ市、各神社で行われている少女たちによる舞（乙女の舞など）、盆の精霊送りのひとつで河川や浜で行われるトーロン、現大井川左岸域で3年に1度奉納される吉永八幡宮の大名行列と鹿島踊りなど、各地区で個性的な祭りがみられます。また、荻野堂（大



写真3-16 浜通りの歴史的建造物



写真3-17 御沓脱跡



写真3-18 川除地蔵



写真3-19 方ノ上法号庵閻魔大王坐像

種類		合計	
有形文化財	建造物	211	
	美術工芸品	絵画	186
		彫刻	75
		工芸品	4
		書跡・典籍	9
		古文書	50,298
		考古資料	約2,600箱
歴史資料	2,736		
無形文化財		15	
民俗文化財	有形民俗文化財	3,320	
	無形民俗文化財	15	
記念物	遺跡（史跡）	93	
	名勝地（名勝）	3	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	12	
文化的景観		2	
伝統的建造物群		1	
その他	伝承・屋号・方言など	172	
合計		57,152	

* 考古資料を除く

表3-3 焼津市未指定文化財数（推計含む）

富地区)、与惣次よそうじの釈迦堂しゃかどう（小川地区）、三ヶ名さんがみょうの不動院ふどういん（豊田地区）などでは、地元ふだの大切な信仰の対象として毎年、祭りが開催され、貴重な歴史文化が引き継がれています。

記念物は、遺跡等として花沢城跡等の遺跡、札つじの辻つじと呼ばれる高札場跡こうさつばあと、江戸時代に活躍した算学者古谷道生ふるやどうせいの数学道場跡すうがくどうじょうあと、大井川の水害を防ぐための輪中跡わじゅうあとや、同じく水除けのための舟形屋敷ふながたやしき、三角屋敷などと呼ばれる屋敷形態、藤枝から当市を経て袋井をつないでいた軽便鉄道跡けいべんてつどうなどが挙げられます。また、急峻な大崩峠おおくずれとうげに掘削された小浜隧道おぼますいどうは近代化遺産として調査対象となっています。同じく近代化遺産には、大正5年（1916）に竣工された石造りの五ヶ堀用水ごかほりようすいも挙げられ、区画整理が進む市内にも貴重な文化財が残ります。なお、明治40年（1907年）に完成した波除堤防なみよけていぼう（防波石堤ぼうはいしづつみ）は平成12年（2000年）に新堤防の建設に伴って取り壊されましたが、焼津水産翁やいづすいさんおうの山口平右衛門やまぐちへいえもん（51頁 コラム参照）が尽力

し、焼津漁業の中心地だった浜通りを高潮などから守ったことで記憶に残されている近代化遺産です。この他、普門寺にある庭園は、源義経みなもとのおよしつね（1159-1189）に由来するとされる伝承地です。名勝地には虚空蔵山を含む大崩海岸、和田浜、天保年間に整えられた防風林を通る松こみちの小径こみちなどがあり、天然記念物には高草山のキスミレ、則心寺のクスノキなどの巨樹を確認しています。瀬戸川には数多くのエノキが植栽されています（写真3-21）。景観の一部になっているほか、水防訓練ではこのエノキの枝を切って、堤防を守ることも行われています。かつて大富地区の川沿いに植えられていたハンノキ（ヤシャンボー）は、今はほとんど残っていませんが、燃料として使われた貴重な樹木でした。

文化的景観としては、大井川左岸（北側）の散居村集落と、焼津漁業発祥地とされる浜通りが挙げられ、浜通りの建造物は漁村の歴史的なおもむきを残す伝統的建造物群でもあります。

その他の未指定文化財としては、市域全域に広がる日本武尊（48頁 図4-1）や徳川家康関係の伝承地や言い伝え（49頁 図4-2）のほか、文豪小泉八雲とのつながりなどがあります。



写真 3-20 ちょうぼろ（豊田地区）



写真 3-21 瀬戸川のエノキ

コラム：ヤシャンボー

かつて、旧大井川本流域以南には河川や水路沿いなどに、「ヤシャンボー」と呼ばれるハンノキが植えられていました。ヤシャンボーは成長が早く枝がすぐ茂るため、山の無い平坦地では貴重な燃料となっていました。火葬の際にも使われたので「葬式マキ」とも呼ばれたそうです。

現在では燃料となることもなく、枝の茂りが早いことが災いしてほとんどが伐採されてしまいましたが、地域の歴史を知る貴重な樹木です。

なお、平成5年(1993)に焼津市南部地区民俗誌が発行され(写真3-22)、タイトルは『ヤシャンボー』と付けられています。ヤシャンボーのある風景は、当時は見慣れたものだったことがうかがわれます。

写真3-22 焼津市南部地区民俗誌『ヤシャンボー』の表紙▶



コラム：屋号のまち

屋号とは、名字とは別に各家を区別するためにつけられた呼び名です。焼津の屋号は、ほとんどが図形と名字の一文字や縁起の良い文字などを組み合わせたもので、市場などですぐにわかるように、書き易く、呼びやすいことが重要でした。市内には、現在でも400を超える屋号があります。屋号に使われる図形の特徴には以下のようなものがあります。

屋号にみる記号の意味

- ①やま \wedge (頂点、比喩的に極めて量が多いこと。頼りとするもの)
- ②まる \bigcirc (完全、数が満ちること。貨幣の意味)
- ③しかく(かく) \square (四角でまっすぐなこと。枡、量が多いこと。)
- ④かね \neg (曲尺。直角でまっすぐ。カネ=金。)
- ⑤うろこ \triangle (魚に関係する)
- ⑥さす \times (茅葺の扱首の形。力を合わせる意味。)



写真3-23 屋号が刻まれた玉垣

コラム：小泉八雲と焼津

東西文化を橋渡しした文学者として業績が高く評価される小泉八雲は、『焼津にて』『乙吉のだるま』『漂流』などの作品を通して、焼津を世界に紹介しました。泳ぎが好きだった八雲は明治30年(1897)、たまたま降り立った焼津の海と人の素朴さが気に入り、明治37年(1904)に亡くなるまで毎年のように避暑に訪れています。焼津では必ず、浜通りの山口乙吉の家に泊まり、水泳をしたり方々の寺社などへ散歩に出かけたりしました。浜通りをはじめ、光心寺に残る浪除地蔵や、奇怪な体験をした熊野神社など、市内には八雲に関連する文化財が多く残されています。小泉八雲と焼津のかかわりを紹介するため、平成20年(2008)に焼津小泉八雲記念館が開館しました(24頁)。



写真3-24 焼津を愛した小泉八雲(晩年)



八雲が描いた焼津の浜